

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	後藤 洋
主な担当科目	作曲・編曲法 II,オーケストレーション,楽曲分析特殊講義,実技グループレッスン[作曲Ⅱ①②]
シラバス	次ページをご参照ください
2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	昨年度に引き続き、創作・表現のいずれにおいても、学生が自分で考え、問題やみずからの課題を発見し、判断できるように指導を行う。そのため討議・質疑の機会を増やし、各学生の考えに沿った課題を与えるほか、学生の意見や実施の結果をできる限り評価し、目指すことが進展するように、また時には軌道修正できるように助言を与える。
2022年の教育に関する自己評価	上に挙げた教育目標にほぼ沿った形で授業・実技レッスンを展開することができた。同じ授業を履修する学生のレベルに格差があり、討論や質疑の内容が納得のいく形で共有できにくい、という2020年度からの課題は、各学生の考えや学修成果を個別に評価し、共有する指導をこころみた結果、少しずつ解決されつつある。次年度も同様の指導を継続したい。
2022年のFD活動に関する自己評価	コロナウィルス感染予防のため各学生への指導、およびマスク着用・手洗い・うがい等の自己管理を徹底し、成果を挙げたと考えている。また昨年度よりさらに増加した外国人留学生に対する注意いケアに努め、相互理解とコミュニケーションで成果を得た。
授業改善のために取り入れた研修内容	作曲・編曲法II、オーケストレーション、および楽曲分析特殊講義の授業で学生に例として提示する音楽作品の研究と分析を、昨年度に増して十分に行った。

科目名－クラス名

作曲・編曲法Ⅱ

作曲・音楽デザイン

曜日時限

木 3時限

担当教員

後藤 洋

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習	3～	通年	2	0	100	0	0	0	100

教育到達目標と概要

吹奏楽の作曲・編曲の能力を養うことを目標とする。管楽器と打楽器の特性、奏法、音域について理解し、さまざまな作品におけるそれらの楽器の用法や組み合わせ方を分析して、実際に吹奏楽のための作曲・編曲を行う。また作曲・編曲の実践に必要な楽曲の分析・研究に取り組み、音楽形式、和声、対位法、スコアの書き方についても学修する。

学修成果

管楽器と打楽器の特性、奏法、音域について理解し、吹奏楽の作曲・編曲ができるようになる。また吹奏楽に限らず大編成のアンサンブルの組立て方について理解を深め、その成果をさまざまな形態やスタイルの作品の創作、研究、演奏に役立てることができる。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション：授業の内容についての説明、履修者の既習状況の確認
第2回	吹奏楽概論：形態、編成、音楽的特性
第3回	既存楽曲の分析① 音楽構成の理解
第4回	既存楽曲の分析② アンサンブルの組立て
第5回	楽器論① フルート、ピッコロ、オーボエ、バスーン
第6回	楽器論② クラリネット属、サクソフォーン属
第7回	楽器論③ トランペット、ホルン、トロンボーン
第8回	楽器論④ ユーフォニアム、チューバ、コントラバス
第9回	楽器論⑤ ティンパニ、太鼓類、小物打楽器類、鍵盤打楽器
第10回	オーケストレーションの基礎① 移調楽器の取り扱い
第11回	オーケストレーションの基礎② 記譜法、トランスクリプション
第12回	オーケストレーションの基礎③ 楽器の重なりとバランス、難易度
第13回	既存楽曲の分析③ オーケストレーションの基本的アイディア
第14回	既存楽曲の分析④ 音色とバランス
第15回	実習：重奏の編曲
第16回	オーケストレーションの応用① 音域と音色を考慮した楽器の組み合わせ
第17回	オーケストレーションの応用② 楽器の特性を活かしたアンサンブルの組み立て
第18回	音楽創作の基礎① 和声の機能、声部進行、非和声音
第19回	音楽創作の基礎② 和声の機能、声部進行、非和声音とオーケストレーション
第20回	音楽創作の基礎③ 対位法の基礎とオーケストレーション
第21回	音楽創作の基礎④ さまざまな音楽のスタイルに即したオーケストレーション
第22回	スコアリングの原則① コンデンス・スコア
第23回	スコアリングの原則② コンデンス・スコアとフル・スコア
第24回	スコアリングの原則③ フル・スコア作成の留意点
第25回	実践と検証:オリジナルなアイディアによる作曲／編曲① 楽曲の理解と編成についての考察
第26回	実践と検証:オリジナルなアイディアによる作曲／編曲② 楽曲のスタイルと音楽構成についての考察
第27回	実践と検証:オリジナルなアイディアによる作曲／編曲③ コンデンス・スコア:各自の実践例の検証とアイディアの共有
第28回	実践と検証:オリジナルなアイディアによる作曲／編曲④ フル・スコア:各自の実践例の検証とアイディアの共有(1)
第29回	実践と検証:オリジナルなアイディアによる作曲／編曲⑤ フル・スコア:各自の実践例の検証とアイディアの共有(2)
第30回	学修の総括：実践を通じて出た問題点の共有と今後の学修についての考察

履修上の注意

作曲・編曲法Ⅰを既習または同時履修していることが履修の条件となる。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

予習・復習は毎週の授業時に指示されるので、授業には必ず与えられた課題を実施してから臨むこと（60分程度）。実施された課題は授業時に点検、検証され、その成果と問題点はクラス内で共有される。

教科書・参考書

特に指定しない。授業時に必要に応じて資料を配付する。

科目名－クラス名

作曲・編曲法Ⅱ

ウィンドシンフォニー

曜日時限

火 1時限

担当教員

後藤 洋

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
演習	4～	通年	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				0	100	0	0	0	100

教育到達目標と概要

吹奏楽の作曲・編曲の能力を養うことを目標とする。管楽器と打楽器の特性、奏法、音域について理解し、さまざまな作品におけるそれらの楽器の用法や組み合わせ方を分析して、実際に吹奏楽のための作曲・編曲を行う。また作曲・編曲の実践に必要な楽曲の分析・研究に取り組み、音楽形式、和声、対位法、スコアの書き方についても学修する。

学修成果

管楽器と打楽器の特性、奏法、音域について理解し、吹奏楽の作曲・編曲ができるようになる。また吹奏楽に限らず大編成のアンサンブルの組立て方について理解を深め、その成果をさまざまな形態やスタイルの作品の創作、研究、演奏に役立てることができる。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション：授業の内容についての説明、履修者の既習状況の確認
第2回	吹奏楽概論：形態、編成、音楽的特性
第3回	既存楽曲の分析① 音楽構成の理解
第4回	既存楽曲の分析② アンサンブルの組立て
第5回	楽器論① フルート、ピッコロ、オーボエ、バスーン
第6回	楽器論② クラリネット属、サクソフォーン属
第7回	楽器論③ トランペット、ホルン、トロンボーン
第8回	楽器論④ ユーフォニアム、チューバ、コントラバス
第9回	楽器論⑤ ティンパニ、太鼓類、小物打楽器類、鍵盤打楽器
第10回	オーケストレーションの基礎① 移調楽器の取り扱い
第11回	オーケストレーションの基礎② 記譜法、トランスクリプション
第12回	オーケストレーションの基礎③ 楽器の重なりとバランス、難易度
第13回	既存楽曲の分析③ オーケストレーションの基本的アイデア
第14回	既存楽曲の分析④ 音色とバランス
第15回	実習：重奏の編曲
第16回	オーケストレーションの応用①：音域と音色を考慮した楽器の組み合わせ
第17回	オーケストレーションの応用②：楽器の特性を活かしたアンサンブルの組み立て
第18回	音楽創作の基礎① 和声の機能、声部進行、非和声音
第19回	音楽創作の基礎② 和声の機能、声部進行、非和声音とオーケストレーション
第20回	音楽創作の基礎③ 対位法の基礎とオーケストレーション
第21回	音楽創作の基礎④ さまざまな音楽のスタイルとスタイルに即したオーケストレーション
第22回	スコアリングの原則① コンデンス・スコア
第23回	スコアリングの原則② コンデンス・スコアとフル・スコア
第24回	スコアリングの原則③ フル・スコア作成の留意点
第25回	実践と検証：オリジナルなアイデアによる編曲① 楽曲の理解と編成についての考察
第26回	実践と検証：オリジナルなアイデアによる編曲② 楽曲のスタイルと音楽構成についての考察
第27回	実践と検証：オリジナルなアイデアによる編曲③ コンデンス・スコア：各自の実践例の検証とアイデアの共有
第28回	実践と検証：オリジナルなアイデアによる編曲④ フル・スコア：各自の実践例の検証とアイデアの共有（1）
第29回	実践と検証：オリジナルなアイデアによる編曲⑤ フル・スコア：各自の実践例の検証とアイデアの共有（2）
第30回	学修の総括：実践を通じて出た問題点の共有と今後の学修についての考察

履修上の注意

作曲・編曲法Ⅰを既習または同時履修していることが履修の条件となる。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

予習・復習は毎週の授業時に指示されるので、授業には必ず与えられた課題を実施してから臨むこと(60分程度)。実施された課題は授業時に点検、検証され、その成果と問題点はクラス内で共有される。

教科書・参考書

特に指定しない。授業時に必要に応じて資料を配付する。

科目名－クラス名

オーケストレーション

曜日時限

金 3時限

担当教員

後藤 洋

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
講義	3～	後期	0	評価割合	0	100	0	0	0	100

教育到達目標と概要

前期はオーケストラと吹奏楽で使用される管楽器と打楽器の特性、奏法、音域について理解し、オーケストラ作品および吹奏楽作品におけるそれらの楽器の用例を分析した上で、四声体コラールおよびピアノ伴奏付き声楽作品を吹奏楽に編曲する。そのために必要な技法について講義する。後期は管弦楽のオーケストレーションについて学び、弦楽器の特性、奏法、音域について理解し、ピアノ曲等の既存の楽曲を2管編成のオーケストラに編曲する。

学修成果

オーケストラの管・打楽器セクションおよび吹奏楽における楽器の用法を理解し、吹奏楽の編曲ができるようになる。また、管弦楽曲のオーケストレーションの技法を習得し、2管編成程度のオーケストラの編曲ができるようになる。

授業展開と内容

第1回	管・打楽器のオーケストレーション 概論
第2回	木管楽器総論
第3回	木管楽器の特性と音域① フルート、ピッコロ、オーボエ、バスーン
第4回	木管楽器の特性と音域② クラリネット属、サクソフォン属
第5回	金管楽器総論
第6回	金管楽器の特性と音域① トランペット、ホルン、トロンボーン
第7回	金管楽器の特性と音域② ユーフォニアム、チューバ、サクソルン属
第8回	打楽器総論
第9回	打楽器の特性① ティンパニ、太鼓類、小物打楽器類
第10回	打楽器の特性② 鍵盤打楽器
第11回	ピアノ、ハープ、チェレスタ
第12回	楽器各論総括および実習への導入
第13回	吹奏楽のオーケストレーション 実習および実例分析(基礎)
第14回	吹奏楽のオーケストレーション 実習および実例分析(応用)
第15回	吹奏楽のオーケストレーション まとめ
第16回	管弦楽のオーケストレーション 概論
第17回	弦楽器総論
第18回	弦楽器の特性と音域① ヴァイオリン、ヴィオラ
第19回	弦楽器の特性と音域② チェロ、コントラバス
第20回	弦楽アンサンブルのオーケストレーション(基礎)
第21回	弦楽アンサンブルのオーケストレーション(応用)
第22回	木管楽器群と弦楽器群のオーケストレーション(基礎)
第23回	木管楽器群と弦楽器群のオーケストレーション(応用)
第24回	木管楽器群と金管楽器群のオーケストレーション(基礎)
第25回	木管楽器群と金管楽器群のオーケストレーション(応用)
第26回	第16回～第25回の総括(実例分析と解説)
第27回	課題提出の準備(題材の分析と研究)
第28回	管弦楽のオーケストレーション 実習および実例分析(1)
第29回	管弦楽のオーケストレーション 実習および実例分析(2)
第30回	まとめー実習内容の共有と検証

履修上の注意

該当年次履修要項を参照し、音楽理論の所定の各級の単位を修得していることが履修の条件となる。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

予習・復習は毎回の授業時に指示されるので、授業には必ず与えられた課題を実施してから臨むこと（60分程度）。実施された課題は授業時に点検し、その成果や問題はクラス全体で共有される。

教科書・参考書

特に指定しない。授業時に必要に応じて資料を配付する。

科目名－クラス名

オーケストレーション

曜日時限

金 3時限

担当教員

後藤 洋

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
講義	3～	通年	4	評価割合	0	100	0	0	0	100

教育到達目標と概要

前期はオーケストラと吹奏楽で使用される管楽器と打楽器の特性、奏法、音域について理解し、オーケストラ作品および吹奏楽作品におけるそれらの楽器の用例を分析した上で、四声体コラールおよびピアノ伴奏付き声楽作品を吹奏楽に編曲する。そのために必要な技法について講義する。後期は管弦楽のオーケストレーションについて学び、弦楽器の特性、奏法、音域について理解し、ピアノ曲等の既存の楽曲を2管編成のオーケストラに編曲する。

学修成果

オーケストラの管・打楽器セクションおよび吹奏楽における楽器の用法を理解し、吹奏楽の編曲ができるようになる。また、管弦楽曲のオーケストレーションの技法を習得し、2管編成程度のオーケストラの編曲ができるようになる。

授業展開と内容

第1回	管・打楽器のオーケストレーション 概論
第2回	木管楽器総論
第3回	木管楽器の特性と音域① フルート、ピッコロ、オーボエ、バスーン
第4回	木管楽器の特性と音域② クラリネット属、サクソフォン属
第5回	金管楽器総論
第6回	金管楽器の特性と音域① トランペット、ホルン、トロンボーン
第7回	金管楽器の特性と音域② ユーフォニアム、チューバ、サクソルン属
第8回	打楽器総論
第9回	打楽器の特性① ティンパニ、太鼓類、小物打楽器類
第10回	打楽器の特性② 鍵盤打楽器
第11回	ピアノ、ハープ、チェレスタ
第12回	楽器各論総括および実習への導入
第13回	吹奏楽のオーケストレーション 実習および実例分析(基礎)
第14回	吹奏楽のオーケストレーション 実習および実例分析(応用)
第15回	吹奏楽のオーケストレーション まとめ
第16回	管弦楽のオーケストレーション 概論
第17回	弦楽器総論
第18回	弦楽器の特性と音域① ヴァイオリン、ヴィオラ
第19回	弦楽器の特性と音域② チェロ、コントラバス
第20回	弦楽アンサンブルのオーケストレーション(基礎)
第21回	弦楽アンサンブルのオーケストレーション(応用)
第22回	木管楽器群と弦楽器群のオーケストレーション(基礎)
第23回	木管楽器群と弦楽器群のオーケストレーション(応用)
第24回	木管楽器群と金管楽器群のオーケストレーション(基礎)
第25回	木管楽器群と金管楽器群のオーケストレーション(応用)
第26回	第16回～第25回の総括(実例分析と解説)
第27回	課題提出の準備(題材の分析と研究)
第28回	管弦楽のオーケストレーション 実習および実例分析(1)
第29回	管弦楽のオーケストレーション 実習および実例分析(2)
第30回	まとめー実習内容の共有と検証

履修上の注意

該当年次履修要項を参照し、音楽理論の所定の各級の単位を修得していることが履修の条件となる。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

予習・復習は毎回の授業時に指示されるので、授業には必ず与えられた課題を実施してから臨むこと（60分程度）。実施された課題は授業時に点検し、その成果や問題はクラス全体で共有される。

教科書・参考書

特に指定しない。授業時に必要に応じて資料を配付する。

科目名－クラス名

オーケストレーション

曜日時限

金 3時限

担当教員

後藤 洋

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
講義	2～	通年	4	評価割合	0	100	0	0	0	100

教育到達目標と概要

前期はオーケストラと吹奏楽で使用される管楽器と打楽器の特性、奏法、音域について理解し、オーケストラ作品および吹奏楽作品におけるそれらの楽器の用例を分析した上で、四声体コラールおよびピアノ伴奏付き声楽作品を吹奏楽に編曲する。そのために必要な技法について講義する。後期は管弦楽のオーケストレーションについて学び、弦楽器の特性、奏法、音域について理解し、ピアノ曲等の既存の楽曲を2管編成のオーケストラに編曲する。

学修成果

オーケストラの管・打楽器セクションおよび吹奏楽における楽器の用法を理解し、吹奏楽の編曲ができるようになる。また、管弦楽曲のオーケストレーションの技法を習得し、2管編成程度のオーケストラの編曲ができるようになる。

授業展開と内容

第1回	管・打楽器のオーケストレーション 概論
第2回	木管楽器総論
第3回	木管楽器の特性と音域① フルート、ピッコロ、オーボエ、バスーン
第4回	木管楽器の特性と音域② クラリネット属、サクソフォン属
第5回	金管楽器総論
第6回	金管楽器の特性と音域① トランペット、ホルン、トロンボーン
第7回	金管楽器の特性と音域② ユーフォニアム、チューバ、サクソルン属
第8回	打楽器総論
第9回	打楽器の特性① ティンパニ、太鼓類、小物打楽器類
第10回	打楽器の特性② 鍵盤打楽器
第11回	ピアノ、ハープ、チェレスタ
第12回	楽器各論総括および実習への導入
第13回	吹奏楽のオーケストレーション 実習および実例分析(基礎)
第14回	吹奏楽のオーケストレーション 実習および実例分析(応用)
第15回	吹奏楽のオーケストレーション まとめ
第16回	管弦楽のオーケストレーション 概論
第17回	弦楽器総論
第18回	弦楽器の特性と音域① ヴァイオリン、ヴィオラ
第19回	弦楽器の特性と音域② チェロ、コントラバス
第20回	弦楽アンサンブルのオーケストレーション(基礎)
第21回	弦楽アンサンブルのオーケストレーション(応用)
第22回	木管楽器群と弦楽器群のオーケストレーション(基礎)
第23回	木管楽器群と弦楽器群のオーケストレーション(応用)
第24回	木管楽器群と金管楽器群のオーケストレーション(基礎)
第25回	木管楽器群と金管楽器群のオーケストレーション(応用)
第26回	第16回～第25回の総括(実例分析と解説)
第27回	課題提出の準備(題材の分析と研究)
第28回	管弦楽のオーケストレーション 実習および実例分析(1)
第29回	管弦楽のオーケストレーション 実習および実例分析(2)
第30回	まとめー実習内容の共有と検証

履修上の注意

該当年次履修要項を参照し、音楽理論の所定の各級の単位を修得していることが履修の条件となる。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

予習・復習は毎回の授業時に指示されるので、授業には必ず与えられた課題を実施してから臨むこと（60分程度）。実施された課題は授業時に点検し、その成果や問題はクラス全体で共有される。

教科書・参考書

特に指定しない。授業時に必要に応じて資料を配付する。

科目名－クラス名

楽曲分析特殊講義

曜日時限

金 2時限

担当教員

後藤 洋

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
講義	1～	通年	4	0	100	0	0	0	100

教育到達目標と概要

作曲、指揮を対象に、高度な楽曲分析の能力を養うことを目標とする。19～21世紀の音楽の流れや作曲家について、また時代背景や作品の作曲経緯を研究する。室内楽作品・管弦楽作品・吹奏楽作品を取り上げ、作品を毎回特定のコンセプトによって選び、作曲者の音楽的意図とその意図を実現するための方法論、作品の構成、表現様式等を研究する。

学修成果

履修者は高度な楽曲分析を行い、その過程と成果を作曲と演奏に生かすことができるようになる。課題提出に取り組むことにより、実践的な分析力が身に付く。

授業展開と内容

第1回 楽曲分析の方法論について（テーマ・モチーフ）（担当 豊住）

第2回 楽曲分析の方法論について（形式・構成）（担当 豊住）

第3回 実践的な楽曲分析への取り組みについて（基礎）（担当 豊住）

第4回 実践的な楽曲分析への取り組みについて（応用）（担当 豊住）

第5回 ロマン派の音楽作品について 分析研究の導入（担当 豊住）

第6回 ロマン派の音楽作品について 実践的な分析研究（担当 豊住）

第7回 ロマン派の音楽作品について 分析研究の総括（担当 豊住）

第8回 印象派の音楽作品について 分析研究の導入（担当 豊住）

第9回 印象派の音楽作品について 実践的な分析研究（担当 豊住）

第10回 印象派の音楽作品について 分析研究の総括（担当 豊住）

第11回 20世紀初頭の音楽作品について 分析研究の導入（担当 豊住）

第12回 20世紀初頭の音楽作品について 実践的な分析研究（担当 豊住）

第13回 20世紀初頭の音楽作品について 分析研究の総括（担当 豊住）

第14回 課題提出の準備（担当 豊住）

第15回 前期のまとめ（担当 豊住）

第16回 20世紀の音楽の主要なコンセプトと技法（担当 後藤）

第17回 調性の拡大と無調性：「機能」からの解放（担当 後藤）

第18回 調性の拡大と無調性：音階と旋法（担当 後藤）

第19回 調性の拡大と無調性：「無調」とは何か？（担当 後藤）

第20回 形式に対する新しいアプローチ：ソナタ……ラヴェルの場合（担当 後藤）

第21回 形式に対する新しいアプローチ：ソナタ……ベルクの場合（担当 後藤）

第22回 形式に対する新しいアプローチ：「形式」とは何か？（担当 後藤）

第23回 音列と12音技法：12音技法の基本的な考え方（担当 後藤）

第24回 音列と12音技法：技法の多様化……ウェーベルンの場合（担当 後藤）

第25回 移調の限られた旋法（担当 後藤）

第26回 新しい音楽構成の原理（担当 後藤）

第27回 異なる音楽様式の連関（担当 後藤）

第28回 引用とパロディ／異種イベントの混在（担当 後藤）

第29回 時間と空間の重層的構造（担当 後藤）

第30回 後期のまとめ（担当 後藤）

履修上の注意

理解できないところは、率直に質問し、積極的に講義を受け、配付資料は毎時間持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業時に指示した内容を学修し、事前に予習して授業に臨むこと。（約90分）取り組んだ課題のフィードバックは授業時に行う。その他の関連した音楽作品にも積極的に触れ、作曲家の傾向を感じ取ること。

教科書・参考書

必要に応じて授業時に資料を配付する。

科目名－クラス名

作曲Ⅱ①

曜日時限

担当教員

実技

後藤 洋

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

クラシック、ポピュラーなど様々なジャンルの楽曲について知識を高め、それらの作曲・アレンジの技術の修得。加えて作曲理論や形式の理解をベースとして、演奏の主科実技の音楽表現に活かすための作曲・アレンジの知識を修得する。専門的能力として基礎力、技術力、専門知識を得て、学士力として汎用的能力、創造的思考力を養うことを目標とする。

学修成果

作曲面では、モチーフからメロディを作曲できるようになる。メロディに適切なハーモニーをつけることができるようになる。ピアノ曲、二重奏までの楽曲の作曲ができるようになる。理論面では、主科実技で演奏している楽曲に対して、作曲の視点から基本的なアナリゼができるようになる。作曲に必要な理論と方法について理解を深めることができる。基本の楽式について理解できるようになる。アレンジ面では、詩とメロディとの関係が理解できるようになる。室内楽の楽器法について理解できるようになる。

授業展開と内容

第1回	作曲・アレンジについての概要
第2回	作曲・アレンジに必要な知識
第3回	モチーフとその役割について
第4回	メロディの組み立てとモチーフの展開
第5回	メロディーとハーモニー、コードの関係、伴奏の動きとその作り方
第6回	クラシックに学ぶハーモニーの作り方 - 古典派、ロマン派の音楽を例に
第7回	ポピュラーに学ぶハーモニーの作り方、コードネームの理解 - 洋楽、J-POPを例に
第8回	様々なハーモニーについて
第9回	リズムの原理
第10回	形式の種類
第11回	形式に沿った楽曲の組み立て方
第12回	ベーシックな形式の理解と作曲の実践（1部形式）
第13回	発展させた形式の理解と作曲の実践（2部形式）
第14回	さらに発展させた形式の理解と作曲の実践（3部形式）
第15回	前期のまとめ
第16回	転調の理解
第17回	転調を含む3部形式の作曲の実践
第18回	複合3部形式の理解
第19回	複合3部形式の作曲の実践
第20回	様々な形式の理解と分析
第21回	作曲・アレンジの実践（導入編） - ピアノ曲のスタイル
第22回	作曲・アレンジの実践（導入編） - ピアノ曲の創作
第23回	作曲・アレンジの実践（導入編） - 二重奏曲のスタイル
第24回	作曲・アレンジの実践（導入編） - 二重奏曲の創作
第25回	作曲・アレンジの実践（導入編） - 歌曲、ソングライティング（詩とメロディの関係）について。
第26回	年度末作品制作 - 曲の構想を考える
第27回	年度末作品制作 - 楽曲のスケッチ
第28回	年度末作品制作 - 楽曲の展開
第29回	年度末作品制作 - 仕上げ
第30回	まとめ

履修上の注意

課題および作曲はレッスン内だけでなく、予習・復習を含め日常的に取り組み、担当教員の指示に従うこと。レッスンでは、毎回、練習課題の実施を伴う。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週のレッスン時に指示されるので、必ず与えられた課題を実習してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各レッスン回で行う。

教科書・参考書

必要に応じて指示をその都度与える。

科目名－クラス名

作曲Ⅱ②

曜日時限

担当教員

実技

後藤 洋

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	2～	通年	2	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト
				評価割合	0	0	100	0	0
									100

教育到達目標と概要

この授業は作曲を学ぶための科目であり、グループの形態で行われる実技レッスンである。作曲Ⅱ①で修得した知識と技術を高めることを目的とし、作曲理論や形式の理解をベースとして、各学生の能力に応じた作品を制作する。作品分析を学ぶことにより作曲法を理解し、個性ある作曲ができるようになる。専門的能力として基礎力、技術力、専門知識を得て、学士力として汎用的能力、創造的思考力を養うことを目標とする。

学修成果

作曲面では、ピアノ曲の自作自演ができるようになる。4重奏までの楽曲の作曲ができるようになる。歌曲が作曲できるようになる。理論面では、主科実技で演奏している楽曲に対して、作曲の視点から応用的なアナリゼができるようになる。作曲に必要な理論と方法について理解したことを実践できるようになる。様々な楽曲について理解できるようになる。アレンジ面では管楽器、弦楽器、打楽器のアレンジについて理解を深めることができる。

授業展開と内容

第1回	作曲・アレンジについての概要（応用編）
第2回	作曲・アレンジに必要な知識（応用編）
第3回	モチーフとその役割について（応用編）
第4回	メロディの組み立てとモチーフの展開（応用編）
第5回	メロディーとハーモニー、コードの関係、伴奏の動きとその作り方（応用編）
第6回	クラシックに学ぶハーモニーの作り方 - 古典派、ロマン派の音楽を例に（応用編）
第7回	ポピュラーに学ぶハーモニーの作り方、コードネームの理解 - 洋楽、J-POPを例に（応用編）
第8回	様々なハーモニーについて（応用編）
第9回	リズムの原理（応用編）
第10回	形式の種類（応用編）
第11回	形式に沿った楽曲の組み立て方（応用編）
第12回	形式の理解と作曲の実践（変奏曲）
第13回	発展させた形式の理解と作曲の実践（変奏曲）
第14回	さらに発展させた形式の理解と作曲の実践（変奏曲）
第15回	前期のまとめ
第16回	形式の理解と作曲の実践
第17回	発展させた形式の理解と作曲の実践
第18回	さらに発展させた形式の理解と作曲の実践
第19回	形式の理解と作曲の実践
第20回	発展させた形式の理解と作曲の実践
第21回	作曲・アレンジの実践（応用編） - ピアノ曲を室内楽編成にアレンジ
第22回	作曲・アレンジの実践（応用編） - 室内楽の概要
第23回	作曲・アレンジの実践（応用編） - 室内楽のアレンジ
第24回	作曲・アレンジの実践（応用編） - 二重奏曲～四重奏曲の創作
第25回	作曲・アレンジの実践（応用編） - 歌曲、ソングライティング（詩とメロディの関係）について
第26回	年度末作品制作 - 曲の構想を考える
第27回	年度末作品制作 - 楽曲のスケッチ
第28回	年度末作品制作 - 楽曲の展開
第29回	年度末作品制作 - 仕上げ
第30回	まとめ

履修上の注意

課題および作曲はレッスン内だけでなく、予習・復習を含め日常的に取り組み、担当教員の指示に従うこと。レッスンでは、毎回、練習課題の実施を伴う。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週のレッスン時に指示されるので、必ず与えられた課題を実習してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各レッスン回で行う。

教科書・参考書

必要に応じて指示をその都度与える。

2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：2629 教員名：後藤 洋

1) 評価結果に対する所見

概ね授業の内容、教育目標、教員の狙いを理解し、それらを好意的に評価した内容である。作曲関係の授業はどうしても理論中心の内容にならざるを得ないが、その中で「知識の確認が多いので、もっと実践的な作業も」という意見（作曲編曲法 II ウインドシンフォニー）を考慮していくことが課題となる。

2) 要望への対応・改善方策

上記1)の「知識の確認が多いので、もっと実践的な作業も」という意見に対応すべく、「作曲編曲法 II」と「オーケストレーション」の双方において、「学生から出た楽器の活用／組み合わせのアイデアを、実際に音を出して耳で確認する」、という実践に結びつけたい。授業内で楽器を演奏できるよう、また、そのために楽器の演奏を専攻学生に依頼できるよう、今後弦管打部会と話し合いながら改善を進めたい。

3) 今後の課題

以上に示したとおり。実際の演奏を伴う「作曲編曲法 II」と「オーケストレーション」の授業となるよう、教務的な調整を進めること。

以 上